

前奏 黙想	祈 禱
讚美歌 6 われら主をたたえまし	讚美歌 321 わが主イエスよ、ひたすら
祈 禱	献 金
信仰告白 使徒信条 566	讚 詠 547 いまささぐるそなえものを
聖 書 イザヤ書 49:5~6	黙 禱
ルカによる福音書 2:34~35	主の祈り 564
讚美歌 361 主にありてぞ われは生くる	頌 栄 539 あめつちこぞりて
説 教 『倒されて、立ち上がる』	祝 禱 後 奏

父ヨセフと母マリアは、時宜に応じて幼子イエスの「お宮参り」のために、ガリラヤからはるばるエルサレムの神殿を訪れた。神殿周辺には「救いを待ち望んでいる」敬虔な一団(ルカ 2:38)が起居しており、聖霊を受けている老シメオン(2:26)や高齢の女預言者アンナ(2:36)もその一員だと思われる。

シメオンは幼子を腕に抱いて神を讃え(2:28)、待ち望んだ救いを目の当たりにし感涙するばかりに神に献げた(2:29~32)。ところが幼子を慣習通りに献げる(2:27)つもりだった両親は、その大仰な讃美に当惑する(2:33)。降誕に際してあれほどの経験をしていながら、彼らはそれを忘れてしまったのか。

「シメオンは彼らを祝福し、母親のマリアに言った(2:34)。「~あなた自身も剣で心を刺し貫かれる一多くの人々の心にある思いがあらわにされるために(2:35)。「心を刺し貫かれる」とは何か。「御覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められている(2:34)」。ということは、「十字架」の折の母の嘆きか。

解せないのは「祝福」なのに、母マリアの悲惨を告げている事。長じたイエスは自らをこう語る。「人の子は今の時代の者たちに対してしるしとなる(11:30)。「しるし」とは何か。「多くの人を倒したり立ち上がらせたり」するために受ける「反対のしるし」。しるしがある所に悔い改め(転換)が起る。しるしは世との摩擦を生み、母は十字架に立ち会い(マルコ 15:40)「心を刺し貫かれる」。それを傍から「祝福」や「恵み」などと言っても「傷に塩」。しかし福音書は「十字架のイエス」に近くある事は、母にとって苦しみでも、神の祝福だと語る。父ヨセフの消息は早々に不明となり、母だけが祝福を負う。

「多くの人を倒したり立ち上がらせたり(ルカ 2:34)」とは、イエスという「試金石」によって、背いて裁かれるか、悔い改めて恵まれる、と解されるかもしれない。私はそうではないと経験的に思う。実際、立ち上がるのは倒れた所から。人は倒されてこそ、立ち上がりうる。倒される現実の一つとして同じものはない。母マリアのごとく「心を刺し貫かれる」事もあるし、「なあんだ、そんなことか」と言われそうな事にひどく苦しむこともある。倒されたり、立ち上がったり、人生はそのくり返しかもしれないが、キリストに従おうとする転換は特別な「立ち上がり」ではないか。ただ私のキリストへの転換は(漁師たちのような)、あるいは再帰は(放蕩息子のよう)、証しできるほど整理されていないし劇的な所もない。私自身ぼんやりのままがいいので、私ではなく神が知っている「悔い改め」。

「母の胎にあったわたしを、御自分の僕としてつくられた主(イザヤ 49:5)」。主は言う。「わたしはあなたを僕として、ヤコブの諸部族を立ち上がらせ、イスラエルの残りの者を連れ帰らせる(49:6)」。預言者は告げる。主が民を「立ち上がらせ」、主の許に「連れ帰らせる」と。キリストは「倒したり立ち上がらせ(ルカ 2:34)」方だが、その力に限界はない。「だがそれにもまして、わたしはあなたを国々の光とし、わたしの救いを地の果てまで、もたらす者とする(イザヤ 49:6)」。私たちはその「光」を継ぐ者。

地の果てで私たちは、キリストに愛され倒される者。私たちは悔い改め、赦され、救われ、立ち上がり、「光」を受け継ぐ者となる。「わたしの神こそ、わたしの力(49:5)」だと信ずる、世にも人にも死にも拘束されない、まったく自由な者となる。「わたしの力」の源は、キリストの「反対のしるし」。

キリストの光を継ぐ私たち 私たちが光だというわけではない 光を預って着ているような感じが光の衣を誰かに手渡しても寒空に震えることはない 一着ずつの光だから欲張った厚着はできない

1/28 は長崎哲夫牧師が説教して下さいます。1/22(月)10:00~11:30 八ヶ岳教会の甲府聖研(YMCA)。

1/24(水)1:00~3:00 教会カフェ(前半 45分は聖研・祈祷会)。牧師の動き:1/25 教誨師会臨時総会。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。